

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第47回北海道博物館大会開催要項

北海道教育委員会
教育長 吉田 洋一 氏
(胆振教育局
局長 菅野 滋 氏代理)

- 趣 旨 北海道の博物館・園および関連施設に勤務する職員ならびに博物館・園等の活動に協力する人々が集い、博物館等を取りまく課題や諸問題を研究協議し、博物館活動さらに生涯学習の振興に寄与することを目的としております。
- 主 催 北海道博物館協会
伊達市
伊達市教育委員会
日本博物館協会北海道支部
- 後 援 北海道教育委員会、日本博物館協会
- 会 期 平成20年7月24日(木)～25日(金)
- 会 場 だて歴史の杜カルチャーセンター講堂
〒052-0012 伊達市松ヶ枝町34番地の1
TEL(0142)22-1515 FAX(0142)22-1155
- 大会テーマ 博物館づくりの楽しさを市民の手に
- 大会日程

一日目(7月24日)

受付	9時30分～10時00分
開会式	10時00分～10時30分
総会	10時30分～11時15分
表彰式	11時15分～11時35分
特別報告	11時35分～12時00分
昼食	12時00分～13時00分
ポスター解説	12時30分～12時55分
総会	13時00分～13時20分
特別講演	13時25分～14時40分
シンポジウム	14時50分～17時00分
閉会式	17時00分～17時10分

二日目(7月25日)

集合	8時50分～
見学会	9時05分～11時50分
閉会式	11時50分～12時00分
解散	12時00分

- 開会式(7月24日 10:00～10:30)
司 会 伊達市開拓記念館
館 長 森田 克博 氏
主催者挨拶 北海道博物館協会
会 長 丹保 憲仁
歓迎の辞 伊達市教育委員会
教 育 長 有田 勉 氏
祝 辞 日本博物館協会
会 長 竹内 誠 氏
(日本博物館協会
専務理事 田村 誠 氏代理)

オリエンテーション 北海道博物館協会
事務局長 寺林 伸明

- 北海道博物館協会総会(10:30～11:15、13:00～13:20)
議 長 団 伊達市噴火湾文化研究所
所 長 大島 直行 氏
富良野市博物館
館 長 若杉 勝博 氏
議 事(平成20年度北海道博物館協会総会資料参照)

■表彰式(11:15～11:35)

- 特別報告(11:35～12:00)
テーマ 日本博物館協会の主要事業と最近の動向
報告者 財団法人 日本博物館協会
専務理事 田村 誠 氏

- 特別講演(13:25～14:40)
演 題 伊達市の過去10年の取り組みと(仮称)総合文化展示館構想
講 師 伊達市噴火湾文化研究所
所 長 大島 直行 氏

- シンポジウム(14:50～17:00)
テーマ 博物館づくりの楽しさを市民の手に
コーディネーター 国立歴史民俗博物館
教 授 安田 常雄 氏
パネリスト1 国立歴史民俗博物館
助 教 佐藤 優香 氏
パネリスト2 野外博物館 北海道開拓の村
副 主 査 松井 則彰 氏
パネリスト3 伊達市噴火湾文化研究所
学 芸 員 青野 友哉 氏

- 閉会式(17:00～17:10)
次期大会開催地挨拶 富良野市博物館
館 長 若杉 勝博 氏
主催者謝辞 北海道博物館協会
会 長 丹保 憲仁

- 博物館施設見学(7月25日 9:00～12:00)
8:45～9:00パレスホテル・ホテルロイヤル・伊達プリンスホテル前集合→9:00出発→9:15史跡北黄金貝塚公園→10:00伊達市開拓記念館→宮尾登美子文学記念館→黎明観→11:15有珠善光寺→バチラー夫妻記念教会堂(通過)→12:00ホテルロイヤル解散→12:20JR伊達紋別駅(希望者のみ)

第47回北海道博物館大会における 見学施設紹介

7月24日・25日に伊達市で開催される北海道博物館大会にあたり、博物館施設見学で訪れる市所管の施設紹介を行いたい。

①史跡北黄金貝塚公園

伊達市の東に位置するこの公園は、約30万㎡におよぶ縄文時代早期(約7千年前)～中期頃(約4千5百年前)の遺跡群であり、5つの貝塚と住居跡、お墓等から、多数の縄文人の人骨、石器、土器・骨角器などの遺物が発掘された。昭和62年に国の史跡に指定、平成13年には史跡公園施設として整備(遺跡の内約10万㎡)された。

解説ボランティア「オコンシベの会」による史跡内の解説や縄文体験学習メニューが用意されているほか、道内各地の発掘調査の成果を知る機会として「新・縄文ロビー講座」という企画を月に一度行っている。



史跡北黄金貝塚公園

②伊達市開拓記念館

市街地に位置するこの施設は、昭和30年に仙台藩一門互理伊達家から市に寄贈された古文書・美術工芸品・調度品などを展示する施設である。また、2万8千㎡におよぶ敷地内には、重要文化財「旧三戸部家住宅」や明治25年築の「迎賓館」などの古建造物が存在する。



伊達市開拓記念館

解説ボランティア「くわの会」による迎賓館の解説やから竿などの体験学習メニューがある。

③宮尾登美子文学記念館

平成17年のNHK大河ドラマ「義経」の原作となる「平家物語」を宮尾登美子氏が伊達市近郊にて執筆されたことを記念して、平成17年4月に開設された。

館内では、ボランティアによる解説を受けられるほか、氏の調度品や著作、新聞連載時の挿絵などが展示されている。



宮尾登美子文学記念館

④伊達市噴火湾文化研究所

平成17年、伊達市における文化によるまちづくり拠点として設立された機関。

25日の博物館施設見学の行程に含まれていないが、①～③の施設所管のほか、噴火湾文化の調査・研究ならびに文化財の保存・活用、さらには絵画教室など芸術分野の活動も行っている。また、「市民学芸員制度」という市独自の認定制度を設けるなど、官民協働のまちづくりを目指した活動を行っている。



伊達市噴火湾文化研究所

(伊達市噴火湾文化研究所・学芸員 黒田 格男)

道央ブロック
News

道央ブロック設立10周年 冬の時代を乗り越えるために

平成20年5月29日(木)、小樽市総合博物館のご協力によりまして、石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会(通称:道央ブロック)の平成20年度総会、第1回研修会、第1回役員会を開催しました。今年には会の設立10周年を記念して、初めて2日間に渡る研修会を実施し、初日は基調講演会とシンポジウム、二日目は施設見学会として小樽市総合博物館運河館・北一ヴェネツィア美術館・日本銀行金融資料館を巡り、小樽の変わりゆく街並みを歩きながらご案内いただきました。

設立当初の会員は56館園でしたが、10年のうちには市町村合併による施設の統廃合、市の財政破綻による施設運営の変化、北海道博物館協会会員であり続けることが困難となった館園などがあり、現在の会員は45館園。新たに入会された館もありますが、結果的に11施設減ということになりました。そのため10周年のお祝いムードというよりは、経済不振と連動する我々の置かれている状況を下げ止まりという期待を込めて現状を「冬の時代」として、研修会のテーマを「地方博物館・冬の時代をどう乗り越えるか」としました。

基調講演会講師には北海道教育大学三橋純予准教授をお招きし、東京都写真美術館・江戸東京博

物館・東京都現代美術館の学芸員であった三橋氏の経験から東京都の指定管理者制度導入以前と以後、公と民の関係などの具体例から、働く人が共通理念を持って館を運営、維持することが大切であると述べられました。シンポジウムでは、小樽市総合博物館の土屋周三館長のリードで、講演会に引き続き三橋氏といしかり砂丘の風資料館の石橋孝夫学芸員をパネリストに、会場からの声も交えてこれからの北海道の博物館園を考えました。

詳細は、『道央MUSEUMニュース』第29号(7月刊行予定)でご報告します。HP「道央ミュージアムネット」でもご覧いただけます。



(北海道開拓の村 黒川 郁)

道南ブロック
News

ピリカ旧石器文化館 「国学院大学によるピリカ遺跡発掘特別展」

今金町ピリカ旧石器文化館では、平成20年4月1日～5月31日まで「国学院大学によるピリカ遺跡発掘特別展」が開催された。これは、国学院大学が行うピリカ遺跡での考古学実習が平成18年度で終了し、資料が町へ返還されたことをうけ、主要な石器約120点を展示したものである。

当館は史跡ピリカ遺跡付設のガイダンス施設として平成15年にオープン。館職員は通常、受付事務員1名のみで、連休中に限り学芸員1名が張り付く体制をとっている。今回の特別展は、展示室中央に2列増設することで行った(写真参照)。また、この開催に先立ち、北海道新聞社の提案で出展資料についての解説文を掲載することとなり、4月21～25日までの5日間、朝刊渡島・檜山版に連載された。

この2ヶ月間の入館者数は計473名。新聞の効果で、特に大型連休期間に町外より多くの来客があり、また、これまで町内にありながらも入館していなかった人や一度入館しただけの人にとっても良い機会となったように見受けられた。

旧石器時代人の生活の様子についてはいまだ不明な点が多く残されており、石器以外の出土品がないこと、学校教科書での記述の少なさもあって、

一般の方々にとっては、まるで「未知との遭遇」である。しかし、精巧に作られた美しい石器や首飾りの玉を目にした時、おぼろげながらも彼らのゆとりある暮らしぶりが浮かんでこよう。国学院大発掘資料については、恵まれた石材環境を裏づける大量の石器出土状況と高度な石器製作技術の2点を大きな見どころとして展示した。

野外施設も含めた展示物を通して、旧石器時代の人々が、一万年という時間差を思わせないほどの人間性豊かな人々であったことを感じてもらえればと願っている。



(今金町教育委員会 学芸員 宮本雅通)

道北3管内
News

士別の常設展示について

当館では、昨年、元ジュニアミドル級世界チャンピオン輪島功一氏のチャンピオンベルトやトロフィー等が寄贈され、展示しております。輪島氏は、樺太生まれで戦後、樺太からの引き揚げ家族として士別に入植しました。博物館から近い丘陵地に入地しており、小学校まで6キロを歩いて通ったそうです。「故郷の若者に希望と勇気を与えたい。」ということで今回の寄贈となりました。士別市と輪島氏、意外な関係と思われる方が多いようです。

そのほかの常設展示は、いよいよ展示替えを考えるときが来ました。いろいろな展示替えの手法が考えられますが、この財政難の士別においてお金のかかる展示換えはできないので、最新の機器を使用してバーチャルな展示をするよりも、収蔵資料を活かして手作りの展示にこだわる。この現実重視の基本姿勢から考えているのが、館内の雰囲気を変えることです。これまでは薄暗い展示空間にヒグマなどの剥製や古い物が並べてある。森のジオラマでは泣き出す幼児がいます。このイメージを変えるには、ただ照明を増やして明るくするだけではだめでしょう。ではどうやって雰囲気を変えるのか？私は「ひだまり」にこだわってみたいと思っています。イメージとしては、ひだまりに猫が寝ているような居心地のよい場所です。このように考えるようになったのは、地元出身の彫刻家阿部晃工氏が作った「眠り猫」という作品



です。小さな木彫りなのですが、日だまりの中で丸くなって寝ている猫、何の警戒心もなく安心して寝ている姿がなんともほほえましい。そんな居心地のいい場所、これこそが士別の博物館が目指す展示替えだ。と思ったのです。この眠り猫をキャラクターとしてパンフレットやテキストにいたり、レプリカを作って入り口やちょっとしたコーナーに置く。だいぶ雰囲気が変わると思うのですが。

ちなみに阿部晃工氏は、明治39年(1906)に士別で生まれ、高等科卒業後、上京、苦勞の末に彫刻家として身を立てた人物です。その人生には、数々の逸話があり、とくに母からもらった激励の手紙の写しは、必見です。ここでは紹介できませんが、来館の際には是非ご一読ください。展示室には、大小20点の作品があります。

(士別市立博物館 学芸員/主幹 水田一彦)

日北地区
News市民・企業とコラボレートした特別展の展開
特別展「マッチワンダーランド
～歴史・デザイン・喫茶店文化～」の開催とその後

苦小牧市博物館では昨年7月から9月にかけて「マッチワンダーランド～歴史・デザイン・喫茶店文化～」と題する特別展を開催しました。これは明治時代の終わり頃に盛んであった小箱や軸木など苦小牧におけるマッチ産業の歴史を紹介するとともに、明治から昭和初期にかけて国内外に出回ったデザイン性豊かなマッチラベルの数々を展示する試みでした。また、1970年代における市内の喫茶店のマッチを当時の街並み写真とともに紹介しました。いささか旧聞に属する話題を取り上げたのは、今年5月から6月にかけて市内のまちづくり団体が、今年の特別展を継承する形で「北のマッチアート展」を開催することになったからです。これはマッチにゆかりの深い苦小牧から、マッチ産業の歴史やラベルに描いたアート作品を発信しようという試みで、市内在住のデザイナーや画家など43名が参加し、当博物館も写真資料の貸し出しや解説会などの協力を行ないました。会場となった特設ギャラリーには、マッチ産業の歴史的背景を紹介したパネルの他に、マッチをキャ

ンパスに見立て、自由にデザインを施した作品が展示されました。

主催の苦小牧のまちづくりを考える会「ゆうべあ」は、街の活性化を図ろうと過去にもホッキ貝、宮沢賢治の来苦、大正時代の街並みなど苦小牧の自然や歴史に関する企画を実施しています。市民が苦小牧の歴史を知る機会が増えることや特別展の反響が市民レベルで広がることは、当館にとっては願ってもないことであり、学芸員もこれに積極的に協力しています。また、解説会などを通じて、学芸員が館外で市民と交流を持つことも博物館の存在をPRするきっかけになると考えています。

この他、今年の特別展最終日には出光興産株式会社の協力を得て、博物館前の公園で特別展のテーマにちなんだコンサートを実施しています。コンサートの開催は特別展の集客に大きな効果がありました。同様の企画は、本年9月に開催される「市制60周年記念 出光美術館コレクション 板谷波山」展の会期中にも予定されています。博物館主催の特別展に市民団体や地元の企業が協賛して、内容を充実させ、継承していく。それによって市民を巻き込んだより良い活動が展開できないだろうか、苦小牧市博物館では模索を続けているところです。

(苦小牧市博物館 学芸員 武田正哉)

道東3管内
News

新しく北海道指定 有形文化財に指定されました

根室市歴史と自然の資料館で展示されている縄文時代後期後半の「初田牛20遺跡出土の土偶及び墓坑出土遺物」が平成20年3月に北海道指定有形文化財に指定されました。この資料の発見は、今からちょうど20年前に根室市初田牛(はったうし)の牧草地でバラバラになった土偶が表土採集されたことに始まります。北海道内の土偶出土例は道央・道南地方に分布の中心があり、道北・道東地方はきわめて少ないという特徴があります。そういうわけで、学術的にも価値のある発見であったため、所属時期や遺跡の性格を確認することや土偶の残りのパーツを探すことを目的とした発掘調査が行われました。

土偶が採集された周辺を中心に164㎡を発掘したところ、土偶が発見された地点の近くから、中にベンガラが敷かれた2基の墓があらわれました。1号墓からは副葬品として石製玉、槍先形石器などが出土し、2号墓からは漆塗櫛、土製耳飾、垂飾、石鎌、磨製石斧、錐形石器などが出土しました。また、出土した土器から縄文時代後期後半の遺跡であることがわかりました。

土偶と墓坑から出土した遺物は平成5年に根室市指定有形文化財に指定され、保存・活用されてきましたが、冒頭でのべたように今年になり道指定有形文化財に「格上げ」されました。指定理由について土偶に関しては、道東における希少な出土事例であることや「最東端の土偶」に相当する

ことから、縄文文化を特徴付ける土偶祭祀の広がりを考える上で重要な事例であることがあげられました。また、墓域に土偶が伴うことや、漆塗櫛、玉類、耳飾など副葬品のセットのあり方が静内御殿山墳墓群(新ひだか町)と類似することから、該期の日高地方との交流を知る上で有力な手がかりとなる資料群であると評価されています。

根室市歴史と自然の資料館では今回の道指定を受け、4/15～6/15の日程で企画展「縄文まじかるレッド」を開催しました。初田牛20遺跡の出土資料を中心に静内御殿山墳墓群、カリンバ3遺跡、美々4遺跡などの出土遺構・遺物のパネル展を行いました。また会期中は展示解説講演会や初田牛20遺跡を訪ねるツアーを開催しました。また土偶の愛称も募集しています。発掘から20年が経過しましたが、今回の道指定によって既存資料の価値を再び見直す機会になったのではないかと考えます。

企画展では恵庭市郷土資料館、新ひだか町静内郷土館、(財)北海道埋蔵文化財センターの御協力を得ました。この場を借りて感謝申し上げます。



初田牛20遺跡出土の土偶
(高さ18cm)

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人)

ト・コンサート・大規模な特別展などに使われる多目的ホール329.9㎡、ホール前室44.9㎡、資料収蔵室294.9㎡、その他379.3㎡となっている。

常設展示された絵画の村瀬真治氏は、流氷画家として全国的に有名で、市内各所にも彼の作品が飾られ、商業意匠にも使われるなど、市民にとって馴染み深い芸術家で、43点が展示されている。

また彫刻の齊藤顯治氏は紋別市生まれで、二科展の特選を受賞、二科会彫刻部会理事をされ、日本彫刻界の第一人者として活躍した。16点が展示された。



街中に飛び出す博物館活動が始まった。

(広報担当：紋別市立博物館 佐藤和利)

網走管内
News

紋別市立博物館分館 まちなか芸術館がオープン

郷土が輩出した偉大な芸術家を展示・紹介し、地域の芸術・文化を街の中に発信するとともに、交流の場をとおして人が集まりつどう、人の交流と文化・芸術機能を統合した、まちなか活性化の拠点として「紋別市立博物館まちなか芸術館」が、5月1日博物館の斜め向いの商店街の一角にオープンした。

この施設は博物館が所管する建物として、街中で芸術・文化の発信をすることにより、街に潤いと人の流れをつくとともに、市民交流の場として活用され、人の賑わいを取り戻して中心商店街や街中の活性化を図ろうとするもので、街の中心部にあった旧NTTラインマンセンターを市で買収し、全面改修して博物館分館として開館した。

建物は鉄筋コンクリート造2階建、延床面積2,116㎡、改修工事費は1億4,643万円。各室内訳は上階が1,067㎡で、流氷画家の村瀬真治氏と彫刻の齊藤顯治氏の常設展示のふるさと芸術館374.6㎡、各種会議や講座に使われるまちなか交流室85.2㎡、和室28.2㎡、文化歴史情報室24.5㎡、ロビー212.3㎡、その他342.2㎡。地階が1,049㎡で、各種イベン



夏季企画展 「四万十川展2008」開催

四国南西部を流れる高知県四万十川。全長196km、吉野川に次いで四国第2位の流域面積2270km²を誇る、高知県で最も長い川です。「日本最後の清流」とも呼ばれ、その名前は全国的に知れ渡っているといえるのではないのでしょうか。

千歳サケのふるさと館で、その清流四万十川流域の自然環境と、川と密接に関わった人々の暮らしを紹介する企画展を開催したのは、10年前の1998年でした。当時四万十川では、怪魚「アカメ」をはじめとする130種類に及ぶ魚類が確認されていました。その多くは淡水と海水が混じり合う河口域に生息する魚類でした。千歳川で約40種、石狩川でも約60種ですから、その種類の数の多さは圧倒的でした。そして2008年、四万十市にある四万十学遊館によれば、四万十川で確認されている魚種は10年前の1.5倍、195種にも増加しているそうです。各地の河川で魚類の減少が問題となっている現在、これほどの種類数の増加は、何を意味しているのでしょうか。

河川において、確認されている生息種数が増加する場合は、調査の充実や外来種の移入などによ

るケースがほとんどと考えられます。しかしそれでは、今回のような急激な増加は起こりえません。四万十川において種類数の増加を引き起こしたのは「浚渫」と「温暖化」によるところが大きいと考えられています。

つまり、元々河口から100km上流の標高が100mしかない緩やかな流れの四万十川は、河床の掘り下げによって、海水の影響をより上流域まで受けるようになり、沿岸域に生息していた多くの海水魚が河川に進入してくるようになったのです。更に温暖化の影響が重なることにより、その海水魚の中に、元来四国周辺では姿があまり見られなかった南方種も多く含まれるようになったことが、今回の種類数の増加を引き起こしたと考えられます。

こうした変化を受け、千歳サケのふるさと館では来る7月19日から夏季企画展「四万十川展2008～変わりゆく日本最後の清流～」を開催します。最後の清流「四万十川」の魚類を通して、この10年に起きた変化をご紹介しますとともに、私たちの身近な自然環境についても、見つめ直すきっかけになればと考えています。多くの皆様のご来館を、お待ちしております。

(千歳サケのふるさと館 飼育展示係長 菊池基弘)



平成20年度学芸員職員部会総会 及び研修会は、ゴールドハンターが開いた町・ 知内町で開催します！

今年度第31回目になる学芸員部会総会及び研修会を下記のとおり渡島管内西南部にある知内町で開催することになりました。

開催日：平成20年9月25日（木）・26日（金）
開催地：渡島管内知内町（渡島半島南西部に位置）
会場：知内町中央公民館（上磯郡知内町字重内）
テーマ：「今、博物館教育について学ぶ」

平成9年度の函館から始まった「地域学のススメ」をテーマに昨年度まで開催してきた学芸員研修会でしたが、今回は上記のようなテーマに変更しました。

「地域学のススメ」は、地域を題材に事業を実施するための方法について、事例をとおして学ぶという色合いが強かったのですが、これまで博物館が担って来た活動が、各種団体や組織において行われるようになり、活動内容に表面上の違いは無いかのように見られています。そのためこれからの博物館はより独自性を持った博物館ならではの活動を実施して行くことが必要であると考えられます。

また、道南の学芸員の方々と話しているうちに、事業展開のための具体的な方法論も大切だが、開催する事業の目的意識（教育）などの理念的なことを学ぶことも必要ではないかとの意見の集約をみました。

そのため博物館の独自性をもった事業を展開するため「何のために実施するのか」というところから考えるための研修会を行うことにしました。

ところで博物館同様に社会教育法に基づいて活動する公民館や図書館など他の社会教育施設との違いや学校で行っている教育との違いなどが認知されていない現状があります。そのため博物館が地域に存在する意義を訴えるためにも収集した資料（モノ）を活用して社会教育を行うことが博物館の機能であり、博物館の中核をなす学芸員は、地域の研究者であり教育者でもある。その学芸員としての資質向上をはかるため副題に「地域の研究者であり教育者でもある学芸員のあり方」と掲げてみました。

研修会の運営については、今後学芸員部会と道南ブロック博物館施設等連絡協議会とで詰めて行きます。

ただ、北海道博物館大会やミュージアム・マネージメント・各ブロックや分野別での研修会もあります。意識してそれぞれの研修会の違いを打ち出したほうが良いのではないかと考えています。

最後に総会では、学芸員部会が現在抱えているいくつかの課題のうち、博物館の情報をデジタル化して発信することにもなう問題、北海道博物館ガイドブックの編集発刊や学芸員・博物館の今後のあり方など、大切な問題について話しあわれる予定ですので、会員皆様のご参加をお待ちしております。

(知内町郷土資料館学芸員 高橋豊彦)

青少年科学館
News

子ども宇宙サミット 「わたしたちの願い」

2008年5月23日(金)から25日(日)の3日間、「子ども宇宙サミット」が苫小牧市で開催されました。

苫小牧市や宇宙航空開発機構などをつくる「子ども宇宙サミット実行委員会」が北海道洞爺湖サミットの開催に合わせて企画しました。

宇宙から見た地球環境をテーマに「美しい星・地球」に暮らす命の大切さや身近な環境問題、そして地球の未来について意見を交わし、北海道・苫小牧から国内外に向け、広くメッセージを伝えていく。

海外からはツバル、韓国、中国・香港、インドネシア、オーストラリアからの9人、国内からは小学生から高校生までの20人が参加しました。

自国が抱える環境問題の報告や参加した子どもたちによる5分科会形式でのディスカッションを行い、G8サミットと地球の仲間に向け、

- ・世界中で協力して環境問題に立ち向かうことをお願いします。
- ・世界各国で環境問題に取り組みやすい仕組みを整備してください。
- ・世界の各国が協力した地球環境を守ることを目的とした宇宙ステーションの建設を進めてください。

- ・日本の生活スタイルに、「もったいない」(Shame to Waste)があります。これを世界中が共通して使える言葉として広めてください。
- ・国により生活スタイルやレベルが違いますから、G8の国は他の国にも気を遣ってください。

私たち子どもは、地球環境問題を解決するために役立つことをしていきます。大人も地球全体のことを考えて、かけがえのない美しい地球を守るように行動してくださいと、提言文を取りまとめました。

期間中は他に、宇宙・環境教育及び地球観測データ利用分野の第一人者による講演、アマチュア無線やインターネット回線を活用した意見交換、自然環境映画「アース (earth)」、銀河鉄道999 3Dアニメの上映、宇宙環境を利用した新しい事業・試みの発表、宇宙実験教室やミール(旧ソ連の宇宙ステーション)特別公開など他イベント・事業が行われました。

当科学センターにあります、宇宙ステーション「ミール」と実験モジュールは、打ち上げ失敗に備えた予備機であります。平成10年に市制50周年を記念して寄贈され、市内の小学生の学習にも活用されています。

「ミール」はロシア語で「平和」。宇宙へのロマンを語り合いませんか。

(苫小牧市科学センター 副主幹 林 正彦)

道美学芸研
News

マンガ・アニメの展覧会

札幌芸術の森美術館では、7月12日から9月15日まで「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」を開催します。「となりのトトロ」の美術監督を務めるなど多くのスタジオジブリ映画に関わってきた男鹿の背景画約600点を展示するものです。当館では、造形集団海洋堂の軌跡、GUNDAM展、ディズニー・アート展など、毎年のようにサブカルチャーを扱った展覧会を開催してきました。いずれもこれまであまり美術館に足を運ばなかった層までも呼び込み、多くの入館者を数えています。それらは確かに集客がひとつの目的でもあります。それ以上に、広い視野から現在とこれからのアートについて考えることに大きな意義をおいています。

美術館でのマンガやアニメの展覧会は、1990年代以降、特に目立ってきた全国的な傾向です。その理由はいくつか考えられますが、まず何より、これまで大衆娯楽の枠でとらえられていたそれらにアートとしての表現要素を認めようという動きであるとともに、日本の文化への影響が無視できないものになっていることの現れだと思えます。また、多くのファンに支えられながらその厳しい

眼の中で育まれ成熟してきた日本のマンガやアニメは、国際的にも評価が高く、多方面からの研究や検証も進んでいます。そして、さらに挙げるとすれば、マンガやアニメを見て育ち、それらに親近感を抱く世代の学芸員が美術館のなかで発言力を強めてきたことも関係しているのではないのでしょうか。観覧者同様、同じマンガやアニメに夢中になり、ヒーローたちに憧れた時期を過ごしてきました学芸員たちが、時代を共有する感性を強く反映させているとも言えるでしょう。

地域に開かれた美術館が求められてきている昨今、これからの美術館は、市民の多様なニーズを反映しながらその領域を拡げ、魅力的な活動を取り入れていく必要があります。多くの人に親しまれ、日本の文化のなかに深く入り込んでいるマンガやアニメとの関わりは、新しい時代を拓くひとつの方法として今後ますます注目されてくると思います。それは、決して観客に媚びるだけのものではなく、しっかりと時代を見据え、美をさぐる姿勢が貫かれているならば、一時期のブームに終わることなく、きっと地域に刺激を与え、より豊かな文化の創造へとつながっていくものになるに違いありません。

(札幌芸術の森美術館 副館長 吉崎元章)

館園の主な展覧会と普及事業

(2008年6月～11月)

石狩

北海道大学総合博物館 (011-706-2658)
6/17～8/31 企画展示「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」

7/15～9/28 「分子のかたち展—サイエンス×アート」

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

7/12～9/4 没後40年「レオナルド・フジタ展」

9/13～11/7 21世紀の大発見「よみがえる黄金文明展」

北海道立三好太郎美術館 (011-644-8901)

9/13～10/26 特別展「鳥海青児と三好太郎」

北海道立文学館 (011-511-7655)

9/18～10/13 ファミリー文学館「岩井成昭展」

札幌市青少年科学館 (011-892-5001)

7/26～8/24 夏の特別展「(仮称)地球」

札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)

8/3 「公開さかな調査」

9/21 「さっぽろサケフェスタ2008」

いしかり砂丘の丘資料館 (0133-62-3711)

7/1～9/28 「厚田と海の道」展

渡島

北海道立函館美術館 (1038-56-6311)

7/20～9/23 「トンちゃんアート展 ハコビでBOO!!」

七飯町歴史館 (0138-66-2181)

8/6・9/3 夜の博物館「縄文学」

9/12～10/21 特別展「幕末のななえ」

檜山

ピリカ旧石器文化館

毎月第3土曜日「石器づくりセミナー」

後志

小樽水族館 (0134-33-1400)

7/29～7/31・8/4～8/6 水族館体験隊

7/26～7/28 磯の生物観察会

(財) 北一ヴェネツィア美術館

8/26～11/30 開館20周年記念特別展「アルフレード・ドルビー二展」

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

8/21～10/19 山岸正己展「写実(リアル)を極める」

空知

砂川市郷土資料室 (0125-54-2121)

9/26～11/16 「暖房器具」展

上川

旭川市科学館 (0166-31-3186)

7/12～9/15 特別展「ふしぎな光 ミュージアム」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術 (0166-52-0033)

6/28～9/28 「砂澤ピッキ展」

10/4～2009/1/25 「生誕120年記念 中原悌二郎展」

富良野市博物館 (0167-42-2407)

8/12 自然に親しむ集い「ペルセウス座流星群と木星観察会」

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

7/19～8/24 「昭和の暮らし展」

8/29～9/14 「昭和のファッション展」

士別市立博物館 (0165-22-3320)

10/18～11/9 特別企画展「和泉雅子写真展—北極」

中川町エコミュージアム (01656-8-5133)

8/7～8/10 森の学校2008夏

8/16 地層観察会

網走

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

7/19～10/19 特別展「海と川の物語～北西海岸インディアンのくらしと美」

10/31～11/30 ロビー展「世界の口琴」

博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

7/1～8/31 25周年特別展「刑務作業の歴史と刑務作業製品」

北網圏北見文化センター (0157-23-6700)

8/29～9/5 「市内小・中学校夏休み作品標本展」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

7/28～8/17 企画展「ピンホール写真の世界展」

8/20～9/15 特別展「博物館でタイムトラベル」

美幌博物館 (0152-72-2160)

6/8～8/17 「寄贈資料展」

8/31～10/19 「寄贈美術資料展①」

胆振

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

8/8・9 室蘭市平和都市宣言啓発事業「戦跡めぐり」

8/10 とんでん館寺子屋教室「紙を漉こう」

仙台藩白老元陣屋資料館 (0144-85-2666)

7/19～8/17 特別展「北海道の鳥瞰図」展

日高

新ひだか町静内郷土館 (0146-42-0394)

4/25～2009/3/31 企画展「日高の自然」(新ひだか町地域交流センターピュアプラザ町民ギャラリーにて開催)

日高山脈館 (01457-6-9033)

5/20～8/31 「北海道のアンモナイト展」

8/3 日高山脈ネイチャーセミナー「第3回沙流川川遊び」

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

8/2 講座「漂着物を楽しむ」

8/5～9/7 企画展「十勝を記録する」

釧路

根室

根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)

10/19 「市街地史跡散歩」